

## 謝 辞

平成30年度第64回近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究協議会を大阪府立藤井寺支援学校において開催しましたところ、近畿2府4県から多数の先生方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

ご来賓として大阪府教育庁教育振興室支援教育課 首席指導主事 内藤孝彦 様、近畿地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長 大阪府立堺支援学校長 橋本輝幸 様のご臨席を賜り、ご挨拶いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、新学習指導要領では、「何を学ぶか」とどまらず、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」を見据え、授業改善を図る方向性が示されました。これを受け、本研究協議会は「主体的、対話的で深い学びの実現をめざす授業づくり」を研究主題として、子どもたちの実態と課題を踏まえつつ、学ぶことの本質的な意義や子ども一人ひとりの持つ強みを改めて捉え直し、授業改善の方策を構想し、実践を通して検証していくことを狙いとして開催しました。

ご講演をいただいた国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部主任研究員 北川貴章 様には、改めて新学習指導要領の重要ポイントをお話いただきました。そのうえで「主体的・対話的で 深い学び」をめざした授業づくりのためには、単元や題材などの時間的なまとまりの中でデザイン・構成を考えていくことの重要性についてご指摘がありました。すなわち、「自身の学びや変容を自覚できる場面」「対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面」「学びの深まりを作り出すために、児童生徒が考える場面と教員が教える場面」を単元などのまとまりの中でどこに設定してくのかということです。

本報告集では、北川様のご了解をいただき、当日ご準備いただいたスライドをすべて再掲しております。各学校での研修等で活用いただけたら幸いです。

7つの分科会におきましては、様々な角度から活発な協議となり、助言者の先生方からまとめや今後の教育実践を進めるための貴重なご意見をいただきました。お忙しい中、どうもありがとうございました。

結びに、準備・運営に尽力されました阪和ブロックの運営委員の先生方に厚くお礼を申し上げ、感謝の意を込めまして謝辞とさせていただきます。

大阪府立藤井寺支援学校長 藤井 雅乗